

三角縁神獣鏡・同範(型)鏡論の 向こうに



書籍番号 76318
鈴木 勉著
2016年12月 A5 258頁
雄山閣 ￥2,800 (本体)
ISBN 978-4639024217
発売 北九州中国書店
TEL/FAX 093-921-6570

三角縁神獣鏡を含む青銅鏡1000面以上の三次元計測のデータベースを元に、復元研究と製作技術論的視点から三角縁神獣鏡「出吹き」生産を唱え、「前方後円墳体制論」に再検討を迫る。

【目次】

↓↓

【目次】

第Ⅰ部 三角縁神獣鏡・同範(型)鏡論？

第一章 同範(型)鏡論百年

1. 自作の断面計測装置から
 - (1)過去から未来へ
 - (2)人類が捨ててきてしまったもの
2. 歴史学と古物調査
 - (1)古物の調査三要素
 - a. 『集古十種』の時代 / b. 拓本の時代(梅原末治氏の同範〔型〕鏡論) / c. 写真の時代
 - (2)写真の時代の計測技術
 - a. 古物調査の細密化 / b. 写真の客観性 / c. 計測技術の遅れ
3. 古鏡調査の細密化と立体化
 - (1)二次元半から三次元へ
 - (2)古鏡調査の立体三要素
 - (3)データの信頼性とグローバルスタンダード

コラム

- Ⅰ-1-1 同範法・同型法の研究 / Ⅰ-1-2 目録番号、配置、表現 / Ⅰ-1-3 平面写真そして立体観察 / Ⅰ-1-4 三次元CADと21世紀の考古学 / Ⅰ-1-5 立体認識方法に革命 / Ⅰ-1-6 古鏡の三次元デジタルアーカイブ / Ⅰ-1-7 無意識的に恣意的な撮影の工夫 / Ⅰ-1-8 金石学における写真の客観性と釈文 / Ⅰ-1-9 計測は国家と社会の基盤 / Ⅰ-1-10 三次元デジタルアーカイブの意味 / Ⅰ-1-11 文化財データベースとグローバルスタンダード

第二章 同範(型)鏡論と三次元計測

1. 同範(型)鏡黒塚12号鏡と同31号鏡の修正痕(目36-37 吾作四神四獣鏡群)
 - (1)神像の断面一多様な高低差一
 - (2)乳の修正
 - (3)へら押しの修正
 - (4)へら押し工人の癖
 - (5)へらの先端角度
 - (6)仕上げ加工痕
 - (7)細部から見える鏡作り工房
2. 目21 張氏作三神五獣鏡群の比較(黒塚16・18号鏡ほか)
 - (1)乳の修正と仕上げ加工痕
 - (2)鈕座の修正
3. オーバーハング鏡の発見
 - (1)三角縁神獣鏡のオーバーハング
 - (2)倭鏡のオーバーハング
 - (3)オーバーハング鏡を作った工人の意図

コラム

- Ⅰ-2-1 実証性のはき違え / Ⅰ-2-2 データを「見える」ようにする / Ⅰ-2-3 基準精度と工具 / Ⅰ-2-4 工人の「癖」と技術的必然性 / Ⅰ-2-5 三次元計測の計測密度 / Ⅰ-2-6 オーバーハング

第三章 神獣鏡の型式学的分類から技術的分類へ

1. 精妙・高度・疑似・稚拙薄肉彫り鏡
 - (1)精妙薄肉彫り鏡
 - (2)高度薄肉彫り鏡
 - (3)疑似薄肉彫り鏡
 - (4)稚拙薄肉彫り鏡
2. 疑似薄肉彫り鏡とオーバーハング
3. 同一工人の手になる鏡
4. 異なる工人による修正

コラム

- Ⅰ-3-1 技術移転論

第II部 同範(型)鏡論と復元研究？

第一章 同範(型)鏡論を振り返る

1. 同範(型)鏡論の進展
 - (1) 観察・推定法の弱点
 - (2) 技術論をどう取り込むか
 - (3) 復元研究の大切さ
2. 同範(型)鏡論の課題
 - (1) 未解決の問題
 - (2) 立体観察で生じた新たな疑問点
3. 復元研究のあり方
 - (1) 観察・推定法から検証ループ法へ
 - (2) かたちか技術か
 - (3) 技術を隠す技術の存在
 - (4) 技術の四次元性
 - (5) 失敗も大切
 - (6) 実験と要素技術
 - (7) 伝統的な技術は古代の技術に近いか
4. 原鏡と複製鏡の製作技術
 - (1) 原鏡製作技術
 - (2) 複製鏡製作技術
 - (3) 復元の方法

コラム

II-1-1 ロウ型の可能性? / II-1-2 大刀環頭の検証ループ法 / II-1-3 技術を隠す技術 / II-1-4 技法と技術

第二章 復元研究の準備

1. 復元研究の条件を設定する
 - (1) 実験の条件
 - (2) 鑄造技術者の選定と取り決め
2. 復元研究の目的
 - (1) 目的を限定する
 - (2) 同範法は可能か?(技術評価の社会的水準と歴史的水準)
 - (3) 踏み返し法での変化
 - (4) 原寸大で復元
3. 原型と鑄型の準備
 - (1) 原型の製作
 - (2) 鑄型の製作

コラム

II-2-1 抜け勾配 / II-2-2 真土と粘土と気孔 / II-2-3 篩の目、砥粒のメッシュ / II-2-4 金属を溶かす

第三章 鑄込み

1. 第1～3回の鑄造実験
 - (1) 第1回の鑄造(2001年1月19日実施、出来るだけ細かい真土を使う)
 - (2) 第2回の鑄造(2001年1月19日実施、鑄型の乾燥が不足したか?)
 - (3) 第3回の鑄造(2001年1月19日実施、同範法に挑戦)
 - (4) 第1～3回の鑄造実験の結果と考察
 - a. 結果 / b. 同範法の可能性 / c. ひびが出来る鑄型の構造 / d. 文様の不鮮明さへの対処方法
2. 第4～6回の鑄造実験
 - (1) 新たな鑄型の構造と製作(第1～3回の実験結果を承けて)
 - a. 二層式鑄型 / b. 粉碎工程を省略した真土の使用 / c. 麻の繊維を混入した土を使う
 - (2) 第4回の鑄造(2001年4月4日実施、湯温を下げ、ガス抜けを改良)
 - (3) 第5回の鑄造(2001年4月4日実施、同範鏡を再び作る)
 - (4) 第6回の鑄造(2001年4月4日実施、同範法の再検証)
 - (5) 第4～6回の鑄造実験の結果と考察

- a. 結果 / b. 真土の粒度とガス抜きと文様の鮮明度の検討 / c. 原寸大鏡 鑄造のための鑄型材料の推定 / d. 同範法の可能性 / e. ひび鏡と突線
- 3. 第7、8回の鑄造実験
 - (1)原寸大鏡の鑄型の構造
 - a. 一層式鑄型 / b. 二層式鑄型
 - (2)第7回の鑄造(2001年6月4日実施、原寸大で作る)
 - (3)第8回の鑄造(2001年6月4日実施、原寸大で同範法に挑戦)
 - (4)第7、8回の鑄造実験の結果と考察

コラム

II-3-1 試料の名称の付け方 / II-3-2 のっぺらぼう / II-3-3 鑄型の収縮とひび / II-3-4 一層式鑄型と二層式鑄型

第四章 考察

1. 同範法の可能性について
2. 観察・推定法と検証ループ法
3. 抜け勾配と鑄型の欠損の関係を検証する
 - (1)抜け勾配がある場合
 - (2)抜け勾配が無い(勾配3.1度)場合
 - (3)逆勾配(オーバーハング)がある場合
 - (4)抜け勾配とオーバーハング
4. 同範法と同型法における文様の鮮明度の変化を検証する—鑄造をするたびに鑄型はすり減るのか?—
5. 鑄型の欠損に起因する突起はどう変化するか?
6. 「鑄型のひびは成長する」か?—二層式鑄型の着想—
 - (1)二層式鑄型の乾燥工程でひびが発生
 - (2)鑄込み工程でひびが発生
 - (3)突線の発生と鑄型の欠損
 - (4)鑄型のひびは成長するか?
 - (5)鑄型のひびと同範法の可能性
 - (6)突線と凹線の問題について
7. 鏡は収縮するか?
8. 収縮とひびの関係について
9. 鏡の反りを検証する
 - (1)踏み返しによる反りの変化
 - (2)同範鏡の反りのばらつきを検証する
 - (3)同型鏡の反りのばらつきを検証する
 - (4)反りを考える
10. 復元研究のまとめ
 - (1)同範法について
 - (2)ひび、鮮明度、鑄造順序について
 - (3)鑄型の欠損、突起について
 - (4)収縮とひびと二層式鑄型について
 - (5)反りについて

コラム

II-4-1 検証ループ法の推奨 / II-4-2 文様の鮮明度と鑄造順序 / II-4-3 三角縁神獸鏡の計測 / II-4-4 古鏡の反りと工学者の参加態度

第III部 同範(型)鏡論の向こうに?

第一章 三角縁神獸鏡の仕上げ加工痕と製作地

1. 鏡を鑄造した後の加工
 - (1)あら加工
 - a. 湯道、鑄バリの除去(切断加工など) / b. 鑄肌の除去(砥石や砥粒を使ったあら加工) / c. 大きな除去加工(平セン、ヤスリを使ったあら加工)
 - (2)仕上げ加工
 - a. 切削加工 / b. 研削と研磨

2. 鏡背面の三角縁の内側と鋸歯文周辺の仕上げ加工の再現実験

- (1)ヤスリで切削加工
- (2)硬い砥石で研削加工
- (3)遊離砥粒と皮革で研磨加工

3. 仕上げ加工痕の比較検討

(1)同範(型)鏡群の比較

- a. 目3 波文帯盤竜鏡群 / b. 目9 天王日月・獸文帯同向式神獸鏡群 / c. 目16 陳是作四神二獸鏡群 / d. 目21 張氏作三神五獸鏡群 / e. 目35 吾作四神四獸鏡群 / f. 目44 天王日月・唐草文帯四神四獸鏡群 / g. 目70 天王・日月・獸文帯四神四獸鏡群 / h. 目70 天王・日月・獸文帯四神四獸鏡群 / i. まとめ

(2)同一古墳出土鏡の比較

- a. 湯迫車塚古墳 / b. 佐味田宝塚古墳 / c. 椿井大塚山古墳 / d. 黒塚古墳

(3)異なる古墳の「研削」鏡の比較

(4)仕上げ加工痕から見えること

4. 三角縁神獸鏡の製作体制について

(1)鏡背面の仕上げ加工はいつ行われたか

(2)三角縁神獸鏡の「原鏡」と「複製鏡」

(3)鋳型を修正した工人

(4)ひび鏡と二層式鋳型について

5. 三角縁神獸鏡と移動型工人集団

(1)中央集権的な技術史観

(2)三角縁神獸鏡の工人集団の本貫地は大和盆地内

(3)系譜論と製作地論を分ける

(4)「原鏡」の製作地

コラム

Ⅲ-1-1 かたさって何? / Ⅲ-1-2 研削と研磨の違いは? / Ⅲ-1-3 観察・推定法から検証ループ法へ / Ⅲ-1-4 ヤスリはいつ頃から使われた? / Ⅲ-1-5 天然砥石と人造砥石 / Ⅲ-1-6 真土と砥粒 / Ⅲ-1-7 原鏡と複製鏡 / Ⅲ-1-8 出吹きと移動型工人集団 / Ⅲ-1-9 出吹きに対するヤマトの特注説 / Ⅲ-1-10 鋸歯文を作る技術

第二章 三角縁神獸鏡・技術移転論

1. 薄肉彫りの技術移転

(1)画文帯神獸鏡から三角縁神獸鏡へ

(2)精妙から高度へ、そして疑似、稚拙薄肉彫り鏡へ

2. 鋳肌の技術移転

(1)鋳肌

(2)鋳肌と薄肉彫り技術

3. へら押し技術の技術移転

(1)技術的距離

(2)異なる鏡を同一工人が作る

4. 鋸歯文の技術移転

5. 仕上げ加工の技術

6. 二層式鋳型の技術

(1)二層式鋳型の着想

(2)突線と二層式鋳型と薄肉彫り技術の関係

第三章 三角縁神獸鏡と古墳時代

1. 古墳時代研究と三角縁神獸鏡製作地論

(1)前方後円墳体制論と鉄・三角縁神獸鏡

(2)三角縁神獸鏡の製作地

(3)実証とは

(4)ヤマト王権の前方後円墳体制論から列島各地の前方後円墳文化論へ

2. 前方後円墳文化論

(1)同範鏡の分有関係はなかった

(2)前方後円墳文化論について

3. 型式学的分類と技術的分類

おわりに 〈同範(型)鏡論の向こうに〉

謝辞

写真掲載三角縁神獸鏡等所蔵機関